

2007 年度 委員会活動成果報告

(2007 年 2 月 15 日作成)

委員会名	地球環境・構造小委員会	主 査 名：稲田 達夫
所属本委員会 (所属運営委員会)	地球環境委員会	委員長名：吉野 博
設 置 期 間	2007 年 4 月 ~ 2009 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	本委員会は建築構造の立場から地球環境への取組みを検討する。設計段階で設定する物理的・社会的寿命の各段階に対して、建築材料、構造部材、架構などの選定がどのような環境負荷を与えるか等の検討を通し、今後の建築構造の在り方を考察する。	
委員構成 (委員名(所属))	稲田達夫(地所設計) 朝山秀一(電機大) 稲田泰夫(大崎研) 大越俊男(日本設計) 大谷恭弘(神戸大) 加倉井正昭(東京ソイル) 坂本真一(清水建設) 田村和夫(清水建設) 田中享二(東工大) 滝口克己(東工大) 西村功(武蔵工大) 橋本康則(大林組) 平川倫生(地所設計) 持田泰秀(清水建設)	
設置 WG (WG 名:目的)	建築構造性能評価システム活用WG	
2007 年度予算	85,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	小委員会開催回数(6回)
得られた成果	<p>1)前年度までの成果を踏まえ、特に重要と思われる事項についての問題の掘り下げを継続する。</p> <p>成果： 新旧丸ビル建設時、構造資材により発生した CO2 量を試算。 2007 年度大会 P D において、構造分野における CO2 排出削減の重要性を提示</p> <p>2)前年度の成果である「良質な社会ストック形成のための建築構造性能評価システム(試案)」の実建物への適用を行い、評価システムの実用性について検証する。具体的適用対象としては、「建築会館」を取り上げる。</p> <p>成果： 評価システム試案を「建築会館」に適用し、建築会館の地震被災後の修復費用・修復期間について推定した。結果については、9月の広島大会において報告の予定</p> <p>公開等：2007年度大会でPD資料を作成、活動内容を公開した。</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>これまでの活動の反省と、今後のテーマ設定について、十分な議論を行い、結果として、当初の目的を達成することができた。また、その内容について、大会PDなどで十分な議論を行えたことは、有意義であったと思っている。 (自己採点 80 点)</p>
その他評価すべき事項	特別研究委員会「長寿命建築構造委員会」の提案を行い採択された。これにより、本小委員会の今後の活動についても、新たな方向性を示すことができたと思っている。